


令和4年8月26日		6年1組	
教科・単元名		国語「作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう（やまなし/イーハトーヴの夢）」	
実践の概要			
<p>1/10時間目の学習。「説明文と物語文があること」「6年国語科の学習におけるキーワード」を確認するなど、今年度の国語科の学習について振り返ったり、本単元のパフォーマンス課題を子供たちと共有したりするところから始めた。単元の見通しをもつことができた子供たち。その後に行った活動では、意欲的に学習に取り組む様子が多く見られた。</p>			
子供の姿			
<p>【パフォーマンス課題】 あなたは、物語の研究者です。宮沢賢治『やまなし』には、辞書にのっていない、賢治が創作した表現が登場するために、読者の中には、どのように理解すればいいかわからない人がいます。あなたは、物語の研究者として『やまなし』をどのように理解しますか？『やまなし』や賢治の他の作品、賢治についての伝記を読んで『やまなし』の理解を深めましょう。そして、あなたの『やまなし』についての理解を、読者に向けて解説しましょう。</p>			
 <p>じゃあ読まなきゃ！</p> <p>魚がこわいとこに言ったと言ったのはなぜ？</p> <p>たしかに！なるほど！</p> <p>「私の幻灯はこれおしまいがあります」ってどういう意味だろう。どこに貼るといいかな</p> <p>クラムボンって何？</p>			
感想	P	<p>○これまでの学びを振り返ったり、6年国語科のキーワードを確認したりする。</p> <p>→子供たちが、これまで学んだことを本単元の学びに繋げることができるようになる。</p> <p>→本単元で働かせたい見方・考え方を意識することができるようになる。</p> <p>○パフォーマンス課題を提示する。</p> <p>→子供たちの頭の中で、「目指すところ」「そのために取り組むこと」が明確になった。「じゃあ読まなきゃ！」というつぶやきが聞こえてきた。</p> <p>○気づきを「気になる・不思議・面白い・思ったこと考えたこと・よくわからない・その他」の視点で分ける。</p> <p>→自分の気づきを頭の中で整理することができたり、友だちの気づきとの共通点を見付けやすくなった。</p> <p>○考えたことを付箋紙に書き、ホワイトボードに貼る。</p> <p>→付箋紙の方が自由に意見を書くことができる子がいる。その子にとって有効な手段である。</p> <p>→「考えて書く→ホワイトボードまで歩く→貼る場所を考える→席に戻る」という一連の流れが、子供たちの集中力を持続させている。ロイロノートの共有ノートにはないよさがある。</p>	
	M		
	I	<p>○パフォーマンス課題を提示された後、「無理です！」「えー！」といった声が聞こえてきた。しかし、その子供たちの表情を見ていると、「難しそうだけど、挑戦してみたい。」といった思いをもっているように感じた。</p>	
まとめ			
<p>授業後の子供たちの様子を見ると、「意外と楽しいかも！」「今日の授業はあっという間だったな！」とつぶやく子が多くいた。「子供に見通しをもたせることができたこと」「自分の気づきを頭の中で整理することができたこと」「子供たちの集中力が持続させることができたこと」などが要因であると考えられる。</p>			

